

21日はオレンジ day

9月は世界アルツハイマー月間

国際アルツハイマー病協会（ADI：84の国と地域が加盟）が本人や家族への施策が充実されることを目的に、世界中で啓発活動を行っています。日本（「家族の会」）では、全国各地でリーフレットを配布する活動や記念講演会の開催など、毎年継続して取り組んでいます。

各地で講演会や街頭でのリーフレット配布、認知症シンボルカラーのオレンジ色のライトアップで啓発活動を行います！



京都タワーをオレンジ色にライトアップ（9月21日）



「家族の会」の活動

詳しくはこちらで→



あなたの町でも
取り組んでいます！



私たちは、認知症になっても
安心して暮らせる社会の実現を
目指しています

【本人・家族の絆】

全国の支部で認知症の本人や家族が集まり、悩みや喜びを話し合うつどいの開催。介護体験、役立つ情報などで勇気の出る会報を発行。本部と全国の支部で年間のべ20,000件の相談を実施。

【社会への発信】

国・自治体への提言・要望活動や講演会・研修会など普及啓発活動。

1980年に結成、全都道府県に支部があり、会員は11,000名。どなたでも入会できます。（年会費5,000円）

活動内容、各地のつどい、国への要望などの詳細は「家族の会」ホームページをご覧ください。

家族の会 検索


<http://www.alzheimer.or.jp>



公益社団法人

認知症の人と家族の会 代表理事 高見 国生

〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下る京都社会福祉会館2階
TEL 075-811-8195 FAX 075-811-8188

認知症の
電話相談  **0120-294-456** (10:00~15:00)
(土日祝を除く)

認知症 見守る地域に つながる絆

「ぼけ」でも安心して暮らせる社会を



公益社団法人 認知症の人と家族の会
Alzheimer's Association Japan



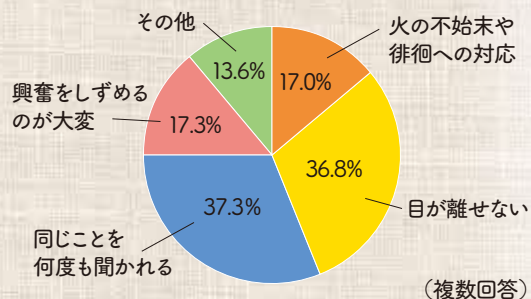
9月は世界アルツハイマー月間

国際アルツハイマー病協会提唱
厚生労働省後援

認知症の人の行方不明は 1年間で1万人以上!

2014年6月の警察庁の発表で、前年度に行方不明届を受理した認知症の人(または疑いのある人)は、1万322人に上ることがわかりました。1週間以内に96%の人は見つかりましたが、いまでも所在がわからない人もいます。報道では7年間も身元がわからず施設に引き取られていた人もいました。

介護で困っていること 2010年「家族の会」調査



家族の「介護の困難」は、直接的な「火の不始末や徘徊への対応」と「目が離せない」を合わせると、徘徊に関連することが半数近くになります。

認知症の人の徘徊は、 家族だけでは防ぎきれません!

歩きなれたいつもの道や、散歩の途中で突然、行方不明になることがあります。また、徘徊するかもしれないと家族が注意していても、ちょっと目を離れた際に出て行ってしまうことがあります。

認知症の人の徘徊を家族が完璧に防ぐことはできません。地域の見守りや社会の取り組みで、認知症の人の徘徊事故を防ぎましょう。

“徘徊”の事故を防ぎましょう

迷っている認知症の人を見分けるいくつかのポイント



迷っている認知症の人と出会ったら

- やさしく声をかける
「どうしましたか?」「お困りですか?」など、安心できる言葉をゆっくりかけてください。できれば、一杯のお茶や水を飲ませてください。
- 困ったときは、警察へ
身元がわからないときは、まず警察(交番、110番)に連絡してください。
- けがや体調が悪いような場合は、救急車を
けがをしていたり、体調が悪そうな時は、まず救急車(119番)をよんでください。
- 役所、地域包括支援センターなどでも対応
近くに役所や地域包括支援センターがあれば、そちらに連絡しても対応してもらえます。



若い人たちにもPR

認知症列車事故—社会的な救済制度を!

認知症の人の徘徊による死亡列車事故に対して、2014年、名古屋高裁は、徘徊を防げなかった家族に責任があるとして損害賠償を命じました。「家族の会」は『認知症の人の徘徊を防ぐことはできない。鉄道会社も認知症の人が軌道内に立

ち入ることを完全には防げない。事故発生時の損害は当事者の責任にするのではなく社会的に救済する制度を設けるべき』との見解を出し、厚生労働省に対し早急に検討するよう申し入れています。(「家族の会」HP参照)